



やずさずぐて使いきる。

畑のゆずのメドが立つと、各家庭では自家消費用の手搾り作業が始まります。ゆず採りで疲れているにもかかわらず、手搾り作業が真夜中にまでなることも。だけど、この手搾り作業はなぜかみんな嬉しそう。それもそのはず、自分が丹精こめてつくったモノを自分が食す喜びたるや。「また今年もありがとう」と果汁を一升瓶に詰めていきます。果汁は主にはお寿司づくりに使うため、お塩を入れて一年分保存したり、お刺身やなんにでも使う無塩のタイプと分けてそれぞれ保管します。出てきた皮は、しいたけなどと甘辛く煮詰めた佃煮や、おみそと炊いた



【ゆず搾り器】

各家庭に一台の必需品。ゆずを搾って果汁と皮と種に分ける。家によって形は異なり搾る加減も若干異なるためかまさに各家庭の味がでる。

ゆずみそなど、村のおかあちゃん味の味になります。種も乾燥させて自家製の化粧水の素として、しっかりと保存しています。自分たちで全てを揃える昔からの知恵。私たち農協も村の一員として、挑戦しています。



ゆず種やゆず化粧品も販売しています。

馬路村ゆずの風新聞

一年の中で最も忙しい季節がやってきた。
村民総出で朝から晩までゆず採りだ。

あるイタリアの言葉を聞いたことがある。
「マンジャーレ、カンターレ、アモーレ。」
意味は概ね「食べること、歌うこと、愛すること。」
と、イタリア人の気風を憧れもこめて表したものだと思っ

馬路村のこの季節は
食べて飲んで明日のゆず採りの活力を得、
ゆず畑では心が踊る、自然と歌を口ずさみ、
我が子のようにゆずを愛し、ゆずに愛される。
食べて、歌って、愛して、
なぜかラテン音楽がゆず畑から聞こえる気がする。

とじや、みそ 酢醬油の味

「うちで一杯やらんか」
かずとくんが誘ってくれた。
「今日はねえ、ざっとしたもん
しかないけんど」テーブルの
真ん中には、お母さんの
かずみさんがつくってくれたゆず寿司と
街で買ってきたカツオのタタキ。
適当につくったという酢醬油に横の畑でとってきた
ゆずをおろし金にかけ、皮をたっぷり入れた。
カツオのタタキは食べ慣れちゆうけんど、あの、
かずとくんの酢醬油で食べた感動の味はよう忘れん。



日々馬路村
ホームページ www.yuzu.or.jp

馬路温泉

ツルツルのお湯です。
ゆっくりここにまませんか。

宿泊やお問い合わせはこちら
0120-44-2026



令和元年 秋冬号

発行：馬路村農協

高知県安芸郡馬路村3888-4

TEL 0120-559-659

【ヘルメット】

危険物から頭部を守るために装着するもの。
ゆずの木にある鋭いトゲからおちゃんを守る。
ゆず採りの象徴、とは言い過ぎかもしれないが
ヘルメットを重宝する者も少なくない。
真剣にゆずと向き合おうと思えば思うほど
装備が頑丈になっていく。
備えがあれば、鋭いトゲすら愛らしい。





【皮手袋】

トゲもほぼ通さず、ゆずの作業には欠かせられない手袋。汚れておれば汚れているほど、仕事をよくしている証。ストアによく買い替えにくるおんちゃんを尊敬する。

けんど、やっぱり、もりあがる。

ゆず終われば、はしけん大会。

ゆずで疲れたはず、なのに顔を赤らめ大はしやぎ。

「ゆずはゆず、これはこれ」

なかなか、やっぱり、もりあがるのが大好きな

村民性なのでしょうか。
(はしけん大会とはお箸を使う高知のお座敷遊びです。)



高知市から室戸方面に約51km
国道55号線を太平洋沿いに
進むと安田町へ入る。
そして左に大きい島が見えてきたら
左へ曲り、安田川に沿って
くねくねと進む。
県道12号線を進むと、約20km
約30分。ようやく馬路村に
着きます。

ようこそ、馬路村!

うまいまい 馬路村への道



道を歩けばこのような
光景に出くわすことも。
平地が少なく、段々畑が
ほとんどのため、農家がそれぞれ
工夫しながら、ゆず採りに勤しんでいます。
台車にゆずを載せて向こうからきたのは、日浦のじゅんちゃん。八十五歳を過ぎてだいぶになりますが、まだまだゆず現役。
「今日はどつしこ採ったかよ」道ゆく人と話し込んで、なかなか前に進めないのが手押し台車の難点です。



【一輪車】

ちょっとした荷物や野菜などを
運ぶのに大活躍。もちろん、
ゆず採り時にも。
これさえあれば大抵のものは
運べるとおんちゃんは豪語する。

ゆずの季節が
また来た



話が出てくる
でしょうかね。



「お疲れさーん」

が響く、ゆず集荷が始まったばかりの
十月の集荷場。これから十一月にかけて
村はガヤガヤとした最盛期を迎えます。
集荷場では、自分の出荷が終わっても
帰ろうとせず、仲の良いおんちゃん同士
おしゃべりにも動しむ姿をよく見かけ
ます。どうやら、ゆず集荷場はゆずを
集荷するだけの場ではないようです。

さてさて、明日はどんな

私たちがゆずでつなぐこの先。

おかげさまで、馬路村のゆずを知ってくださる方が
少しずつ増えてきたように思います。ほんとうに
ありがとうございます。都会と、この馬路村。その両方が
喜ぶ形を続けていく。大きなことは言えませんが、田舎として
出来ることに取り組んでいこうと思います。



【高枝バサミ】

ゆずの木は2mを超えるものが多く、
高枝バサミを駆使してゆず玉を摘んで
いき、高枝バサミがこの季節は「腕」
と化す。簡単そうに見えて、初心者は
扱いに苦戦する。

